

# 生涯學習情報誌

Life Learning

2020  
Jun.  
NO.358



## 奥四万十山の暮らし調査団

## ■地域資源としての地名

財団の2018年度助成金支給事業の一つ、奥四万十山の暮らし調査団による調査報告書『四万十の地名を歩く』がこの4月に上梓された。本書の目的は、四万十川流域の住民の記憶に残る地名や伝承、生活の記憶などの「民衆知」を聞き取り、後世に書き残すことにある。また、地名にまつわる地域の歴史や文化の記憶を聞き取り、文字としての地名を「生きた地名」として記録し、地域資源として活用できる基礎的資料を提供することにある。

調査団のある高知県に限らず、平成の大合併では多くの旧地名が失われた。そして合併後の新自治体名には、地域の成り立ちや文化を無視した、単に今っぽい名称が多く付けられている。地名は大地に刻まれた記憶の語り部。伝統的な建物や工芸・芸能などが文化財として重用されているのに、地名はほんざいな扱いだ。それはもったいない、地名が本来持つ意味を記録にとどめようと、WEBサイト「四万十町地名辞典」を開設（2015年）。それをきっかけに地元の人々が集まり、地域資源としての地名の可能性を村落史研究の立場から探ってみたい、そんな思いで結成されたのが本調査団だった。

## ■メンバーが四万十川流域で広く聞き取り

本書『四万十の地名を歩く』（全166ページ）は、調査団としての調査報告書第3冊。今回は、高知県西部・四万十川流域の梶原町、四万十町、四万十市をフィールドに調査団のメンバーが行った調査の成果をまとめたものだ。



# 「住民による農山村の民衆知の記録と伝承」

『地域資料叢書19 四万十の地名を歩く』—高知県西部地名民俗調査報告書Ⅱ、津野庄・幡多庄故地現地調査報告書Ⅰ—

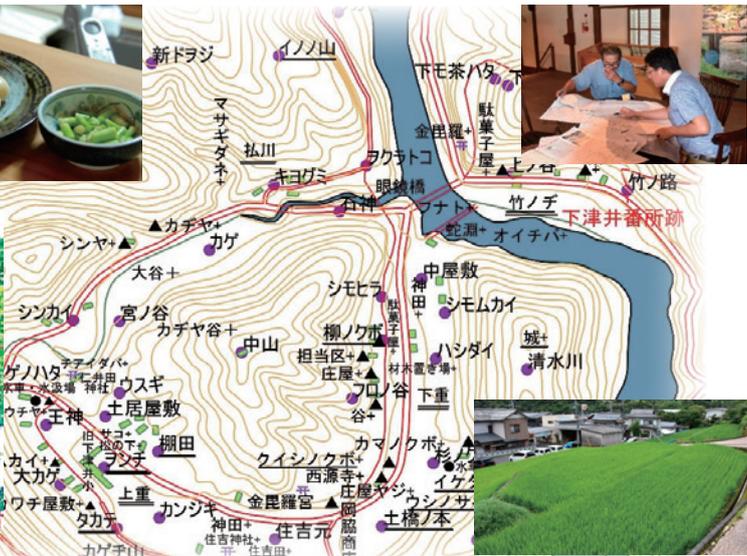
聞き取り調査の様子



各集落に伝わる行事や文化なども紹介されている。



地域資源地図として森下嘉晴氏による絵地図も紹介されている。



梶原町町組の棚田

第1章「四万十の地名を歩く」では、四万十町で使われている約6千の地名を語彙別に分類し、地名の分布から集落の生業を読み解いた。

第2章「四万十の村々を歩く」は、四万十市2集落（口鴨川・江川）、四万十町3集落（金上野、下津井、小野）、梶原町（町組）などでの聞き取り調査の成果。集落それぞれの歴史や伝統行事、祭礼などを写真入りで紹介している。

第3章「地域資源地図で見る四万十」では、流域の地名や民俗の調査をふまえた5つの地域資源地図を紹介。まち歩きにも活用される絵地図が殊勝だ。

第4章「四万十の地名を考える」では、高知県の熊野神社、戦国期の上山郷（大正・十和地区）と海の領主の関わりに関する2論考と、佐賀越えと呼ばれる大正—佐賀をつなぐ古道の踏査成果、大正中津川の関札調査の2報告を掲載している。

## ■小さな地名の生み出す価値

調査団代表世話人の武内文治さんは語る。

「地域の地理情報は災害対策や国土利用などに有用性が認められ、国は衛星と連携した地理情報システム（GIS）を進めています。県下に10万を超える小字こあざなどの小さな地名も、ビッグデータを活用することで発見が生まれます。一方で、部落地名の問題などから、自治体は小字データの公開には消極的です。昔を知る高齢者が存命のうちにと、聞き取り調査を急いでいますが、まとめ作業が追いつかない状況です。そうした悩みを抱える小さな団体の活動ですが、ご支援をいただき感謝しています」

ようこそ！  
和楽器の  
世界へ 九

# 胡弓 Kokyu

富山県を代表する伝統行事、富山市

八尾地区の「おわら風の盆」では、哀愁を帯びた胡弓の音色に合わせて踊ることでも有名だ。

胡弓は日本の伝統楽器で唯一の擦弦楽器。形状は三味線に似て、胴に皮を張り、棹に絹糸をかける。全長70cmくらいで、胴体下に8cm程度突き出たの中子先なかじさきと呼ばれる部分が特徴的だ。材質は、棹が紅木、胴が花梨、糸巻が黒壇などであることが多い。弦は三弦が主流だが四弦のものもある。弓は民謡用で80cm前後、古典用では100〜120cmとかなり長い。束になった馬の毛がゆるく張られていて、右手で弓の毛の根元を引き締めながら演奏する。

左手の奏法は三味線と似ているが、胡弓は弓で擦って奏するため、持続音や和音も出せる。擦る弦を変える際は、ヴァイオリンのように弓の角度を変えるのではなく、楽器本体を回しな

## 木場大輔

Kiba Daisuke



淡路島出身。甲陽音楽学院にて音楽理論とピアノを学ぶ。古典胡弓を原一男師に師事。江戸時代より伝わる胡弓の伝統を尊重しつつも、四絃胡弓の開発、作曲など、胡弓の可能性を追求している。NHK Eテレ「にっぽんの芸能 花鳥風月堂」、NHK総合「バナナゼロミュージック」などに出演。吉田兄弟全国ツアーや、映画「駆込み女と駆出し男」サントラに参加など、幅広く活動を展開している。

中高生の頃はジャズ・ピアノをやっていた、大  
学で作曲表現を広げたいと思い、世界の民族音楽  
や伝統楽器を研究していました。弓で奏する弦楽  
器を調べていく中で、日本にも胡弓という楽器が  
あるのを知りました。いろんなルートから探して  
やっと巡り会い、楽器屋さんから先生を紹介して  
もらったのです。

胡弓専門の演奏家がいなのは、胡弓が主役にな  
れるレパートリーが少ないからだと感じ、自分  
の作曲の経験を活かすると直感しました。古典と  
並行して、越中おわら節、文楽の阿古屋琴責の段、  
郷土芸能など、各地で伝わる胡弓の曲目や奏法を  
研究。それをベースに新たに作曲、古典曲への手  
付などをして、胡弓の魅力をさらに磨いて次世代  
に渡すという、活動の方向性を決めました。

### ● 未来の古典となり得る活動を

胡弓とピアノ、シンセサイザーによる「KOD  
ACHIE」、胡弓と箏、二十五弦箏による「生糸」、  
胡弓、筑前琵琶、箏、尺八による「おとぎ」など  
のユニットをベースに活動しています。古典から  
最新のアプローチまでを一つのコンサートで聴い  
てもらおうと、わかりやすく伝わると思い、201

### ● AUN 情報

#### AUN Jクラシックオーケストラが書籍で紹介

小学生に和楽器の魅力を伝える書籍『知りたい日本の伝統音楽』（ミネルヴァ書房）に、AUN Jクラシックオーケストラが紹介されています。裏表紙には写真も載っています。



#### 【公演】和楽器の魅力探訪（シリーズ）

日時：2020年9月13日（日）開場14時30分／開演15時  
会場：川口リリア 音楽ホール（川口市川口3-1-1）  
チケット：全席指定3,000円（税込）TEL購入048-254-9900（10:00～19:00）  
主催：川口リリア

詳細：<http://www.aunj.jp/jpn/livedisc/liveinfo/schedule.html>

#### ● 監修者：AUNプロフィール

井上公平・井上良平。1969年大阪にて5人兄弟の末の双子として生まれる。1988年、和太鼓集団・鬼太鼓座（おんどござ）に出会い、高校卒業と同時に入座。2000年に「AUN」として独立。2009年、邦楽界で活躍する若手を集めて「AUN Jクラシック・オーケストラ」を結成。公演回数は国内外で1400回以上。子どもたちに日本文化の魅力を伝えるため、全国の小学校を訪問し、和楽器演奏と桜を植える活動もしている。

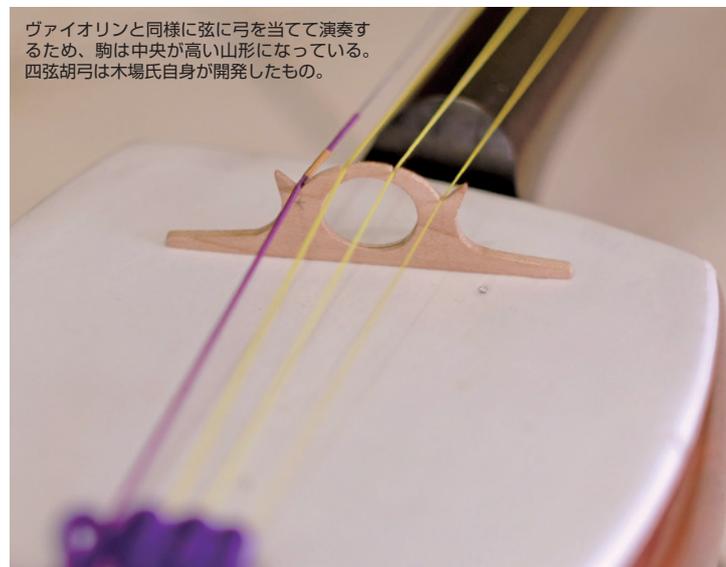


5年にコンサートシリーズ「胡弓いまむかし」  
伝えたい音、今奏でる」を立ち上げました。胡  
弓の伝統技法を踏まえた上で、未来の古典となり  
得る新感覚の主奏作品を作りながら、レパートリ  
ーを広げる取り組みをしています。  
楽器も改良。低音弦を追加した四絃胡弓を開発  
し、弓の重心を変えて、伝統奏法から現代の複雑  
な技巧にまで対応できるようにしました。奏者育  
成のため、東京、横浜、大阪で技術指導と古典曲  
の伝承、普及に努めています。一般向け胡弓体験  
会も開催しています。



### ♪音を聴いてみよう！

生涯学習開発財団のWEBサイトで、胡弓の音色が聴けます。  
<http://www.gllc.or.jp/>  
または、左のQRコードからどうぞ。



ヴァイオリンと同様に弦に弓を当てて演奏するため、駒は中央が高い山形になっている。四絃胡弓は木場氏自身が開発したものの。

から演奏するのが特徴。  
胡弓の起源には諸説あるが、約400年前の  
江戸時代初期、すでに日本独自の楽器として存  
在した。その後、地歌、箏曲、義太夫節、民謡  
などにおいて、三味線奏者や箏奏者が胡弓を兼  
任する形で伝承されてきた。そのため、胡弓専  
門の演奏家や胡弓のための楽曲といった形の発  
展は限定的だったが、現代的演奏においてはそ  
うしたことも積極的に取り組まれている。  
懐かしい和の響き、ヴァイオリンのような精  
緻な洋楽の音色、そしてアジアテイストの空  
気感とが、同じ楽器から奏でられる。